

整形外科外来だより

No 24 2012/5/1 けいゆう病院 整形外科 発行

◆ 異動のお知らせ

3年間、当科で脊椎疾患を中心に診療してきた日方医師が、3月末に異動・退職しました。日方医師が主治医となっていた患者様には、ご迷惑をおかけすることになり大変恐縮ですが、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。4月から日方先生と同じ脊椎疾患を専門とする藏本医師が赴任し診療にあたっています。よろしくようお願い申し上げます。

◆ 痛み止めのお薬について（その2：神経の痛みの薬）

その1では、ロキソニン・セレコックスなど消炎鎮痛剤について説明しました（整形外科外来だより No22 参照）。炎症による痛みをとる薬でありイメージとしては火事が起こった際に水をかけるような効果があります。整形外科で処方される薬の多くは消炎鎮痛剤ですが、最近は全く違う種類の痛み止めが使われるようになってきました。

痛みの原因は以下の3つに分けられます。

- ① 炎症や外傷などによって起こる痛み（侵害受容性疼痛）
- ② 神経の痛み（神経障害性疼痛）
- ③ 心理的な要因による痛み（心因性疼痛）

怪我による急性の疼痛は①ですが、痛みが長く続く慢性の痛み（坐骨神経痛、肩こり、腰痛、関節痛など）は①-③が混在しています。①には消炎鎮痛剤が効きますが、②③には消炎鎮痛剤はあまり効果がありません。つまり消炎鎮痛剤を内服しても、効果がない場合は②③の要素が大きいと考えられます。

神経の痛み（②）に対する薬が2010年6月から日本でも処方可能となりました。プレガバリン（商品名：リリカ）という薬で、海外では既に100か国以上で使用されており、②の痛みに対して第1に使用すべき薬として推奨されています。神経の痛みとは、針で刺されるような痛み・電気が走るような痛み・ひりひりするような痛み・しびれを伴う痛みなどであり、整形外科では頸椎や腰椎の変形を原因とする上肢や下肢の神経痛が多いです。イメージとしては、火事というよりは雷であり、水をかけても効果がありません。リリカには、雷を抑えるようなイメージの効果があり、神経痛や痛み過敏になった状態に対して効果が期待されます。

主な副作用は、めまいや眠気です。服用開始時は自動車の運転を避けて下さい。薬を続けることや薬の量を減らすことで、副作用は軽減することが多いので主治医に相談して下さい。また体重が増加することがあります。肥満の徴候があらわれた場合は、ご相談下さい。期待した効果が得られない場合も、内服を継続することや薬を増量することで効果が出る場合があるので、主治医にご相談下さい。 （文責 川崎俊樹）